

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500381		
法人名	株式会社関東メディカル・ケア		
事業所名	グループホーム メディカルフローラ新白岡		
所在地	埼玉県白岡市新白岡7-5-11		
自己評価作成日	令和 4年 1月 31日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4年 2月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリに力を入れており、認知症の進行やADLの低下防止に力を入れております。また手芸等のレク・外気浴・も積極的にいき、コロナ渦でもご利用者様ができるだけ外気にふれる事ができる機会を作っています。
職員一人ひとり自覚を持ち、日々スキルアップに努め、質の高いケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基本として、事業所独自の理念「職員心得6か条」があり、毎朝、朝礼で唱和している。その一つに、転倒させないがある。職員は、毎日1枚ヒヤリハットを提出し、整理整頓をすることにより、転倒防止を意識している。職員間のコミュニケーションは密で、声掛け、気づかいが来ている。仕事の分担も、まんべんなく出来ている。また、行事やイベントは、多彩である。コロナ禍前は、地域包括支援センター開催の、音楽鑑賞や体操教室にも、積極的に参加していた。ボランティアも、フラダンス、民謡、ドッグセラピー、傾聴などを楽しんでいた。現在は、コロナ禍で、中止となっているが、密を避け、近くの土手などに、お花見に行っている。医療連携も、提携医の月2回の訪問診療、毎週の訪問看護、訪問歯科等があり、安心の体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、職員心得を音読し職員全員で共有し深く理解する様に努め実践に繋がっています。	法人の理念は基より、事業所の理念「職員心得6か条」があり、朝礼で唱和している。そのひとつに、転倒させないがある。毎日、職員は1枚のヒヤリハットを出し、整理整頓を心がけ、転倒防止に、努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩時、近所の方との挨拶から地域包括の行事にも参加し、施設外の方々と利用者様がふれあえる様な機会を作れています。	コロナ禍前は、地域包括支援センター主催の、音楽鑑賞、体操教室に参加していた。ボランティアも、フラダンス、民謡、ドッグセラピー、傾聴など多彩であった。今は、散歩で近隣の住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、回覧板等で地域に情報を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告や運営現況の報告をして、現在重点的に取り組んでいる内容をお伝えし、意見や助言を求め地域の理解と支援を得ています。	コロナ禍前は、2か月に1度、市の担当、地域包括支援センター、民生委員などが参加して、開催していた。現在は、中止となっているが、資料を作成して、市の担当、地域包括支援センター、民生委員などに届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの通達事項はファイルし、不明な点や事業所の受け入れ体制は市に伝え協力体制を築くようにしています。また、市の各関係部署と連絡を密に取り協力関係を築くよう努めています。	コロナ禍で必要なマスク、消毒液、手袋等が市役所より配布があり助かっている。コロナ前は、地域包括支援センター主催の音楽鑑賞や体操教室に参加していた。また、市からの研修案内があり該当者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行わない方針を貫いていますが安全面を考慮し、フロア出入り口と玄関はテンキーにて施錠を行っています。	毎月のフロア会議で、身体拘束・虐待防止委員会が開かれる。ネットから取り出した事例研究や、日々の支援の中での、声掛け、介助の方法など、具体的な事例に基づき、意見交換している。また、年6回の本社研修でも、取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員間で理解を深め、身体的、心理的虐待の防止を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が、資料を使って制度について学び実践できるように取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に、重要事項の説明から契約書、契約書別紙の読み合わせを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様の意見、要望は職員が傾聴する体制を取っています。伺ったことはフロア会議等で話し合いを行っています。	コロナ禍前は、家族会などがあり、家族の意見を聞く機会があった。現在は、ガラス越しの面会が中心である。月1回の「フローラ便り」で、現況を伝え、利用者の身だしなみについて、要望があったことから、訪問理美容を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議を行い職員の意見、提案を聞く機会を設けています。全体会議には会社代表者、関連医療法人の理事長、本部職員も参加しております。	2か月に1度法人の社長、副社長が出席しての、全体会議がある。施設長、フロア長、ケアマネジャーが参加し、職員の意見や要望を伝えている。防災グッズの置き場所がないとの要望で、倉庫を造った例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部(病院等)や、年に六回の内部研修に積極的に参加し、スキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院が主催する勉強会の場で情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度利用者様に寄り添い、訴えを傾聴し可能な限り支援を行えるように話し合いを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安に感じていること、要望等を傾聴し可能な限り要望に沿ったサービスの提供を行うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご利用者様の状況に合わせたサービスの提供を行い、一定期間経過後に次に必要とされるサービスの提供を行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様、職員共に生活を支えあっていく中で、ご利用者様が食器拭きや洗濯物たたみ、掃除など日常生活で出来ることは無理のない程度で積極的に取り組めるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族様との連絡を連絡を密に取りご利用者様の生活歴を聞き取って支援に参加していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人様が訪ねて来られる機会があり、居室でゆっくり過ごしていただいています。	コロナ禍前は、家族や知人が来訪して、居室で談笑していた。昔よく行った八百屋、スナックなどに、ドライブがてら、行ったりもしていた。家族が面会に来て食事や買い物を楽しんでいたが、今は、中断している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、相性を考慮しながら、食卓での座席の配置を行っています。職員が間に入り、一人ひとりが孤立しないよう話題作りを気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も協力関係が築けるように入居中から相互の理解を深める努力をしています。退居された方のご家族様との交流も続いており、月に一回紙芝居のボランティア活動を続けて下さっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や訴えを傾聴し、出来る限りそれに沿えるように努力しています。	契約時に、本人や家族に、過去の生活歴、趣味、嗜好など聞き取っている。果物の好きな人には、庭にフルーツの木を植えて、提供している。また、表現が困難な人は、家族に聞いたり、性格などから、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の生活歴やこれまでの経過を記入した書面をいつでも見ることが出来る場所に保管しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一ヶ月に一度、フロア会議を行い、ご利用者様の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向、意見を取り入れチームケアによる統一された介護計画を作成しています。	毎月開催のフロア会議で、ケアカンファレンスを行っている。介護記録やヒヤリハットをベースに、施設長、フロア長、ケアマネジャー、職員が参加して意見を出し合っている。また、主治医の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも申し送りノートを作成し、日々の変化を記録して情報の共有に努め介護計画の見直し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様とご家族様の状況が把握できるように連絡を行い、施設で対応可能な限り柔軟に支援やサービスを提供するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアにも定期的に来て頂き楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度、往診があり往診時に本人が状態を伝えることが困難な時には、職員が説明を行い適切な医療が行われるように支援しています。	系列の医療機関と提携していて、月2回の訪問診療がある。24時間オンコール体制があり、医療依存度の高い人の受け入れも可能である。訪問看護は、隔週、訪問歯科は、毎週来ていて、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月二回、看護師が施設を訪問して、バイタルチェックや健康相談を実施しています。日頃の様子や気になることを報告して、助言を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医の診療情報および施設の介護サマリーを提供し医療機関に理解を求めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族様との話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し医療機関とも連携を図っています。	通院や入院が長期化してきたら、家族と主治医、事業所が、終末期をどのように過ごすか、相談している。事業所で、出来ること、出来ないことなど説明している。看取りの経験はあるが、ケースバイケースでの対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修、外部研修により実践的な訓練を行い、急変時、または事故発生時に的確な行動が取れるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に二回行っています。地域との協力体制を築くために地域で開かれる防災訓練に参加するよう努力しています。	年2回自主避難訓練を、おこなっている。コロナ禍前は、消防署の立ち合いがあったが、今は、写真提出である。水害対策は、垂直避難とし、備蓄品は、飲料水、食料、簡易トイレなど倉庫に保管している。	防火自主訓練の中で、夜間想定での訓練が不十分である。夜間は職員が少ないことも踏まえ、緊急連絡網の活用や隣に住む家主を始め、近隣住民の協力を得る体制づくりを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれに合った声掛け、優しい言葉をかけることを心がけています。	個人情報、5年間保存後、融解廃棄している。日常は、鍵のかかるロッカーに保管、パソコンは、パスワード管理している。トイレ誘導や入浴時のプライバシー保護については、危険のない範囲でしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望などを極力叶えられるよう、職員間で話し合い、ニーズに合った対応を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の健康を第一に考え、無理に用事をお願いしないように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装のスタイリングなどは、ご利用者様と職員が一緒に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の食事の取り方に気を配っています。食後は食器拭き、テーブル拭きをしていただいています。	食材は外注で来るが、ご飯、みそ汁、おかずなどすべて職員の手作りである。利用者は、皮むきテーブル拭き、配膳、下膳など手伝っている。お正月は刺身の船盛り等喜ばれている。コロナ禍前は、外食にも出かけた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてご本人様、ご家族様の理解を得てエプロンを着用し、食事を召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、ご利用者様と一緒に洗面所で義歯を外し、うがいや義歯の洗浄をしていただき、ご自分の歯がある方は歯磨きを行っていただいています。訪問歯科に定期的にケアをお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えをされない方もいらっしゃる為、時間を見計らいトイレ誘導を行っています。その他の方は自力で行える為、トイレまで誘導し排泄は自力で行って頂いています。	排泄チェック表を作成している。2時間おきにトイレ誘導している。概ね7割の人は、トイレで排泄出来ている。夜間も、7割の人は自立でトイレに行く。その他の人は、時間でパッド、おむつの交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数の記録、排泄を促すための体操、運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助の方がいらっしゃる為、その方はシャワー浴ですが、大半の方は全身浴されています。	週2回の入浴を基本とし、午前中を入浴タイムとしている。要望があれば、いつでも入浴出来ている。しょうぶ湯、ゆず湯、入浴剤なども楽しみである。ゆつくり湯船につかり、職員とマンツーマンで、会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気浴や活動をしていただき、夜間安眠できるようにしています。日中も少しの時間休息を取っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による研修を受けるなど副作用、用法は調剤薬局と連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、役割を担って頂き仕事をする事で、充実感を図っています。塗り絵や折り紙などに取り組み楽しみや刺激を感じて頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子を使用されている方とシルバーカーを使用している方がいらっしゃる為、一度に出掛ける人数を決め、数回に分けて外出行事や普段の散歩に出掛けています。	コロナ禍前は、近隣の散歩をはじめ、過去に行っていた八百屋、花屋、スナックなどに、ドライブがてら、出かけていた。家族が面会に来て、食事や買い物にも出かけていた。今は、密にならない外出で、近くの土手に、花見などに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭を使う方はいませんが、要望があれば買い物などの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はご本人に手渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と職員で楽しく取り組める色々な作品を作り、季節感を感じることが出来るように、フロア内に飾るなどしています。	リビングは、南向きで、明るい。エアコン、加湿器洗面台、ソファなどがあり、ゆっくり寛げる空間になっている。壁には、利用者で作った、ちぎり絵、貼り絵などが、飾られている。掃除は、夜勤者が、フロア、手すりなど、すべてを消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、ご利用者様が自席以外でもリラックスして過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご本人とご家族様が選ばれたもの、または使い慣れたものを持ち込んで頂き、心地よく過ごしいただけるようにしています。	カーテン、電動ベッド、マットレス、エアコン、クローゼット、照明は、備え付けられている。その他、在宅で使い慣れた物、趣味の物など、何でも持ち込んでいる。掃除は、毎朝、職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札や「浴室」「トイレ」と表示した掲示物を貼るなどの工夫をしています。		